

ストレンナ 2021 テーマの紹介

希望に衝き動かされて:

「見よ、わたしは万物を新しくする」(黙示録 21:5)

はじめに

毎年そうであるように、この数週間、来年のストレンナとして選ばれた題を、サレジオ修道会のすべての管区、またサレジオ家族のすべてのグループに送っています。今年の終わりまでまだ 5 か月ありますが、新しい教育司牧の年に向けて計画を立てるため、年末を待たずにお知らせすることが必要になります。そうすることを大変うれしく思っています。

同時に、ここに挙げるいくつかの点はもちろんストレンナの解説ではなく、その全体を通して流れる共通の糸、いくつかの考えにすぎません。それらは、ストレンナから導き出される考察の発展といくつかの司牧の指針を理解するのに不可欠であると私が考えるものです。

1. 挑戦を投げかける、無視できない世界的現象

2021 年に私たちを一つの家族として一致させるメッセージを考えると、世界が、あらゆる国が、麻痺状態(実に多くの国はこの状態にあります)、あるいは少なくとも外界と遮断された状態にあるという事実を考えないことは不可能です。旅行は問題外、世界的、国際的なレベルの企画を実現することはできなくなっています。「地球村」は当面、疑いの目で互いを見る多くの「村々」の寄せ集めに戻ってしまい、きっとこの状況がしばらく続くでしょう。壁は崩れていますが、「自己防衛」のため、境界線の取り締まりがいつそう強化されました。

この状況を前に、自分たちは乗り越えられる、自らを信じなければならない、私たちは強い、どのような場合も国民の誇りによって最悪の事態を乗り越えてきた、などといった数え切れなほどのメッセージが繰り返されます。ものの見方、起きていることの解釈の仕方でもあるそのメッセージの多くは、有名なギリシャ神話に描かれる「プロメテウスのな」主張を思い起こさせます。ある人が自分で自分を再び造り上げる、再創造することができる、逆境を乗り越えるために、自らの弱さから力を汲むことができるというものです。これは非常に異教的なものの見方です。そのメッセージの多くは、生きることの意味、すべての人のいのちの意味について、

全く触れませんが、ましてや神について、そして歴史上のこの時、私たちが体験した歩みについてなおさら語ることはありません。

しかしながらそれは、私たちのものの見方ではなく、私たちがサレジオ家族として存在する多くの場所で差し出したいと願うメッセージでもありません。

ですから、私たちのメッセージは強調し、主張します。重い結果を伴う厳しく痛ましい現実を前にしながら、**希望に衝き動かされること**の確かさを私たちは表明し続けると:なぜなら神は、聖霊のうちに、「万物を新しくする」み業を続けておられるからです。

教皇フランシスコは、コロナウィルス禍が終息したならば、再建のために「なくてはならない正義、愛、連帯の抗体」¹ を持とう、と世界に呼びかけました。

今この時、世界がどれほどの悲しみの中にあるか、それを否定することはできません。何百万もの貧しい人々が感染し、命を落としたことを、私たちは否定できません。私たちは安全なディスタンスを取るよう呼びかけられていますが、ファベラ-スラムに密集し、ゴミ捨て場の隣りに暮らす人々がソーシャル・ディスタンスを守れると想像できるでしょうか？ 失業により何百万もの家庭が影響を受けています……; 愛する人々を弔うこともできず、何百万もの人々が悲しみに暮れています; 忍び寄る貧困(時には飢え)の陰が不安をもたらし、方向性を奪い、途方に暮れさせ、あらゆる希望を葬り去ろうと人々を脅かしています。

2. ドン・ボスコはこれらの状況と縁遠くはない、自らも同様の状況を経験したので

私たちは父ドン・ボスコに言及します。ドン・ボスコ自身、生涯を通じて実に数々の厳しい状況、悲劇、大きな苦しみに直面したからです。ドン・ボスコは、信仰と希望の道が光をくれるだけでなく、好ましくない状況あるいは逆境を変える、または少なくとも可能なかぎり最小限にとどめるため必要な力を与えてくれることを、師として私たちに示します。私たちの父は、類まれな粘り強さと物事への深く現実的なまなざしにおいて、際立っていました。ドン・ボスコは、問題を超えてその先を見ることができました。コレラの状況は -地域的レベルで- 私たちが今それぞれの国で経験していることに似たものでした。ドン・ボスコは少年たちと共に、教育者、司牧者として、その状況の中を歩きました。自分たちのこと、自分たちに必要なことしか心配しない人々がいる一方で、ドン・ボスコと少年たちは、ほかの多くの人々と同じように、悲劇を乗り越えるため、献身的に協力しました。信仰と希望の深いまなざしは、ドン・ボスコが生涯を通じて示したものだと言えるでしょう: キエリで勉強するため、母とわが家を後にし、カフェ「ピ

¹ 教皇フランシスコ, “Un plan para resucitar” a la Humanidad tras el coronarivus (PDF), in *Vida Nueva Digital*, 17 April 2020, pp. 7-11.

アンタ」で住み込みの給仕として働きながら孤独と困難に立ち向かったとき；ジュゼッペ・ピナルディと出会うまで、オラトリオが開かれる日曜日の午後、少年たちを迎える場所がなく、涙を流し、苦しんだこと……こういったことすべては、ドン・ボスコが希望という徳に衝き動かされたことを確証するのです。

3. 「万物を新しくする」(黙示録 21・5) ことのできる聖霊の働き

神が聖霊を通して、最も大変な逆境の時、好ましくない時においてさえ、人類の歴史と共に歩まれることを、キリスト教信仰は絶えず示します。この神は、苦しむことはないが、共感のあわれみに満ちておられます。キアラヴァッレの聖ベルナルドは、次のような美しい言葉で表現しました：「Impassibilis est Deus, sed non incompassibilis (神に苦しみはないが、共感のあわれみに欠くことはない)」²。救いの歴史の中で、神は決して民を見捨てません。常に民と共におられます。特に民の苦しみがあまりに圧倒的なものとなる時に：「見よ、私は新しいことを行う。／今や、それは起ころうとしている。／あなたがたはそれを知らないのか。」(イザヤ 43・19)

3

この時、この状況は、間違いなく次のことのために助けになるでしょう。

- ・ 多くの人の苦しみを知ること。
- ・ 実に多くの人々を苦しめる飢え、戦争という共謀の罪、一部の人を豊かにしながら何百万もの人々を貧しさに追いやる生活様式といった、常態化し沈黙のうちに蔓延する、多くの疫病に目を向けること。
- ・ より恵まれた状況にある場合、より簡素、質素な生活の仕方ができないか、自分たちの間で問いかけること。
- ・ 人々がその事実を否定し続ける中、この世界、被造世界全体が苦しみ、病んでいることを、真剣にとらえる。
- ・ 「統合的で持続可能な発展を求め、全人類家族を一つに結ぶこと」⁴ の大切さに気づく。

4. 今という時のサレジオ的な解釈

² Bernardo di Chiaravalle (Bernard de fontaine), *雅歌についての説教*, XXVI, 5; PL 183, 906.

³ 教皇フランシスコ, *前掲書*, p. 11.

⁴ 同上

この歴史的な時について多くの解釈がなされています。百年に一度、何らかの理由で大きな危機が人類を襲うその時であると言われていています。最も悲惨な戦争でさえ、私たちが今経験している状況ほど「グローバル」ではありませんでした。いずれにしても、私たちはこの状況にどのように応えることができるのでしょうか。サレジオ家族としてどのような貢献ができるのでしょうか。サレジオの視点で読み取るどのような福音的価値を差し出せると、私たちは感じるのでしょうか。私たちは教育者として、どうすれば別の選択肢として、「希望の教育」を差し出すことができるのでしょうか。

- ・ 支配的な文化に対する、別の選択肢としての歩み。価値観、ものの見方の変化：
- ・ 閉ざされた状態から、開かれた姿勢へ
- ・ 個人主義から連帯へ
- ・ 孤立から真の出会いへ
- ・ 分断から一致と交わりへ
- ・ 悲観から希望へ
- ・ 空しさと意味の欠如から超越 *transcendence* (この世を超えて永遠に変わらない価値・意味)へ
- ・ 神は、希望をもって生きることのできた実に多くの人を通して、私たちに語られます：
- ・ 極限の状況にあってなお、違うものの見方、応答をする人々の心を通して、神は語り続けてくださいます。
- ・ 私たち家族のサレジオの聖性は、希望に衝き動かされて生きることのできた人々の豊かな模範に恵まれています(福者ステファン・サンドル、福者マッダレーナ・モラーノ…)
- ・ 私たちは、自分一人で救われるのではありません。誰も一人で救われる人はいません。

私の言わんとすることは、教皇フランシスコの次の言葉にあります：「この時を通じて私たちが学んだことが一つあるとすれば、誰も自分を救う人はいないということです。私たちがどれほどもろい存在であるかをあらわにする、ほとんど知覚できないほど微小な存在を前に、境界は無くなり、壁は崩れ、原理主義の主張は霧散します……地平を開き、創造力を目覚めさせ、私たちのうちに兄弟愛を新たにさせるのは、そして私たちを待つとてつもなく大きく、推し量ることのできないほどの任務の前に身を置かせるのは(あるいは私たちに、『私はここにおります』と言わせるのは)、神の霊の息吹です。聖霊の鼓動を識別し感じることは、差し迫った必要です。ほかの人々と共に、歴史上の今という具体的な時に、主が生み出そうと望まれる新たないのちをあかしし、導き入れることのできるダイナミズムを前進させるためです。」⁵

⁵ 同上。

- 私たちはサレジオ家族として、この緊急事態の時にあって、愛と希望のしるしとなる答えを差し出そうとしてきました。そして今日、私たちは、別の選択肢として自らの生き方を差し出さなければなりません：
- 若者の人生の旅路を共に歩み、新たな地平、視野に開かれるよう若者を助けます。
- 「境界」のない社会で、「前線」で生きることを学びます。すなわち、「日常性」を単純に、真実に、目覚めた心で、深く生きることを発見するよう、若者、大人を助けます。
- 困難な時を生きる若者の、多くの希望の声が投げかける挑戦を受けとめます：エコロジー運動、貧しい人々との連帯。

5. 希望を学び、実践する場

- 信仰と希望は結ばれています。**真実な道として、信仰を示しましょう**、なぜなら、「神のおられない世界は、希望のない世界」(エフェソ2・12 参照)だからです。
- **祈り** - 希望の学び舎、私たちを救われるイエス・キリストの愛との親しい出会いとして。
- **日々の生活における行動、努力**。結局、人は衝き動かされるとき、状況を変えるために行動します。そして心の奥底に、常に支えとなる希望があります。「人間のあらゆる真剣で誠実な行いは、行動に移された希望です。」⁶
- すべての人の人生に起こる**苦しみ、悲しみ** - 希望へと開く、なくてはならない扉として。

多くの文化は、苦しみや死を何とかして隠したり、沈黙させたりしようとしています。しかし、人がいやされるのは、この苦しみや痛みを避けたり隠したりすることによってではなく、その中で成長し、人生の意味がすぐに、容易に目に見えなくとも、それを見いだすことによってなのです。実に、「人間の偉大さは、苦しみと、そして苦しむ人々と、どのように関わるかによって本質的に決定づけられます。」⁷

- 神が常に目を注がれる**貧しい人々、疎外された人々**が、私たちサレジオ家族の優先的な受益者でなければなりません。
- 大きな試練の時、多くのものが失われます。手にしていると思われた多くの「確実なこと」、人生に意味を与えてくれると思っていたけれども、そうではなかったものなどです。しかし実際、哲学や時流に迎合する一過性の思想が破綻する中、**福音の大いなる価**

⁶ 同上, p. 35.

⁷ 同上, p. 38.

値とその真理はとどまります。福音の価値は消えることはありません。「流動化」したり消散したりしません。私たちドン・ボスコのサレジオ家族が、自らの信じることを示すのをあきらめたり、どのような状況を前にしても差し出さなければならない応答において、カリスマにおけるアイデンティティーを失ったりしてはならないのは、そのためです。

6. ナザレのマリア、神の母、希望の星

私たちの母マリアは、希望が全くないように思われるときも、信頼し希望を持つこと、神のみ名に信頼することの意味を、よく知っておられます。

神へのマリアの「はい」という応答は、人類のあらゆる希望を目覚めさせました。

マリアは、御子の誕生に際しては、無力や孤独を味わわれました；悲しみに心を貫かれるという予告を、心の中に留められました(ルカ 2・35 参照)；ご自分の子が「反対を受けるしるし」となり、理解されず、拒絶されるのを見る苦しみを味わわれました。

御子に向けられた敵意と拒絶を経験されながら、ゴルゴタの十字架のもとで、「希望」は決して絶えることがないと理解されました。そのため、マリアは、母として弟子たちと共にとどまりました - 「女よ、見なさい。あなたの子です」(ヨハネ 19・26) - 希望の母として。

「聖なるかた、マリア

神の母、われらの母

あなたと共に、信じ

希望し、愛することを教えてください。

み国への道をお示してください。

海の星よ、

私たちを照らし

旅路をお導きください。」⁸

アーメン。

総長 アンヘル・フェルナンデス・アルティメ神父, S.D.B.

2020年8月2日 ローマ
福者アウグストゥス・チャトリスキーの記念日に

⁸ 同上, p. 50.